

打合せ議事録

1. 議 題	学校保健のDXに向けたデータ連携基盤の構築（町田市実証事業） 事業運営検討会（第1回）
2. 期 日	2026年2月24日（火） 14：30～15：00
3. 場 所	リモート会議(Teams)
4. 出席者 （敬称略）	実証事業推進兼システム提供（内閣官房デジタル行財政改革会議事務局、合同会社デロイトトーマツ）、実証参加者（町田市立藤の台小学校、町田市立鶴川第二中学校、町田市民病院）、意見提供（文部科学省、APPLIC（一般財団法人 全国地域情報化推進協会）） 事務局（教育委員会保健給食課、デジタル戦略室、株式会社NTTデータ）
5. 資 料	【会議資料】 事業運営検討会（第1回）配布資料

決定事項	
	事業運営検討会（第1回・2/24回）で提示した「事業概要／実証スコープ／評価観点／体制／マイルストーン」等を前提に、実証準備を進める。 実証は「紙運用」と「PMH-Web運用」を同一条件で比較し、登録情報はダミーデータ・個人情報は扱わない前提で進める。
保留事項	
	日程が確定していないイベント（第2回事業運営検討会、第3回事業運営検討会）の確定を行う。調整は、進捗管理のNTTデータから実施する。
議事内容詳細	発言者
01_開会挨拶（町田市 デジタル戦略室 室長メッセージ）	
1	開会挨拶（高橋室長） 2024年より「3か月、4か月健診」におけるPMH実証を開始していること、また2026年3月に「乳幼児医療の資格情報連携」を開始予定であること等、町田市では、医療機関・市民・自治体をつなぐPMHの利活用を積極的に推進している。本実証（学校保健DX）により、PMHの対象範囲を学齢期まで拡大し学校との情報連携を開始することで、紙運用起因の課題解決と利便性向上につながることを期待している。本実証を学校保健の変革の第一歩とするため、関係者の皆様へ協力をお願いしたい。
	町田市
02_事業運営検討会の位置づけ・アジェンダ	
1	検討会の位置づけ 進捗確認・課題整理を通じ、実装モデルの妥当性の確認と今後の展開方針共有の場として設定する。
	町田市
2	参加者構成 実証事業推進（デジタル行財政改革会議事務局様、合同会社デロイト様、株式会社ミラボ様）、実証参加者（町田市民病院様・藤の台小学校様、鶴川第二中学校様）、意見提供（文部科学省様、APPLIC様） APPLIC様は本日都合がつかず、同趣旨説明済みのため、コメントは会内で紹介予定。
	町田市
03_事業概要（背景・目的・評価観点）	
1	背景 紙運用に起因する事務負担・非効率（配布/管理、紛失、再確認等）を課題として認識している。
	町田市
2	目的 PMHを学校保健へ拡張し、情報共有+手続デジタル完結（ワンスオンリー）を目指す。
	町田市
3	評価観点 所要時間・事務負担軽減、利便性/満足度、情報共有の質の3軸を時間測定、ヒアリング、アンケート、インタビュー等で測定する。
	町田市
04_実証概要	
1	実証範囲・前提条件 紙運用 vs PMH-Web運用を同一条件で比較し効果確認を行う。 対象業務：学校健診を起点に、医療受診、学校生活管理指導までの一連業務を想定している。
	NTTD
2	前提条件 登録情報はダミーデータ、個人情報は扱わない
	NTTD
3	測定に関する留意事項 現地訪問の同席は最大4名という整理で進めさせていただきたい。 医療機関のペルソナは全数実施ではなく、現場負荷を考慮し、1時間枠でできる数だけ実施という形で進めさせていただきたい。
	NTTD
4	役割分担 学校（養護教諭等）：健診後の学校業務中心に、紙/PMH双方の操作・確認に協力いただく。 保護者役（町田市職員等）：指示書（シナリオ）に従い入力・提出・結果確認を紙/PMH双方で実施いただく。 医療機関（市民病院）：受診結果に基づく報告・指導票等の作成/入力、参照・記入負荷の観点で評価いただく。 ペルソナ設定：（一社）こどもDX推進協会様に御推薦いただいた株式会社Kids Public代表取締役 橋本直也先生に、児童生徒のペルソナ設定を監修いただいた。
	NTTD
5	スケジュール（マイルストーン） 主要イベント：①第1回検討会（本日）、②参加者説明会兼紙測定、③第2回（中間報告会）、④PMH-Web測定→⑤第3回（最終報告前議論）を2月～3月にかけて実施する。
	NTTD
6	体制・役割分担 実施責任者：町田市デジタル戦略室長、担当課：教育委員会保健給食課（窓口） 事務局運営：町田市デジタル戦略室、運営支援：NTTデータ 実証事業推進/システム提供：デジタル行財政改革会議事務局 等
	NTTD
05_関連機関の皆様からのご発言	
1	デジタル行財政改革会議事務局：畑中政策参与 学校保健で取得している情報が、これまで保護者・医療機関に十分デジタル展開されてこなかった点を踏まえ、PMH-Webを介して「切れ目なくデータを活用できる形」にしていくことが本実証の狙い。町田市（教育委員会・養護教諭・市民病院）や関係事業者の協力のもと、年度末までの限られた期間で成果を積み上げたい。
	デジ行財
2	デジタル行財政改革会議事務局：岡井参事官 今回の実証は「今後何年もかけて組み上げていくプロセスの一步目」と位置付けており、時間・負荷・利便性・情報共有の質などを丁寧に測り、取組の実現に向けた効果の確認を行いたい。事業運営検討会は第1回である一方、実証は既に佳境に入っており、年度内に複数の重要イベントをこなす必要があるため、関係者の継続的な協力をお願いする。
	デジ行財
3	文部科学省 総合教育政策局健康教育 吉川様 健診結果の電子化は推進しているが、PMH連携は新しい観点として捉えており、実証を通じて「現場が実際に使ってみた率直な所感（良い点・負担感・課題）」を具体的に収集して頂きたい。
	文科省
4	APPLIC（町田市が2/19に受領したコメントを代読） 事業趣旨に賛同する。従来の学校、保護者の1対1中心の連携から、PMHを介して学校・保護者・医療機関が多者でつながり、学校外組織にも拡張していく点を重要な一歩と評価している。実証では紙運用に対する負担軽減・効果を客観化し、特に現場（養護教諭等）が改善を実感できる形になることを期待する。加えて、校務支援システムとPMHの連携、帳票・項目の標準化、残るローカルルール整理が重要論点であり、結果を踏まえ必要な観点提示で協力するつもりである。
	町田市